

Yumeken

夢けんせつ
DREAM CONSTRUCTORS

春

2019 Vol.689

◆特集○話題の焦点

地域とつながる滋賀の学生たちの取り組み

◆夢インタビュー

高校生の視点で見た建設業の魅力を
学校新聞で紹介

◆行ってみよう

歩いて出会う、焼き物の街“信楽”の魅力

◆おじゃまします

田中建材株式会社



地域とつながる滋賀の学生たちの取り組み

滋賀でまちづくりや建築を学ぶみなさんが、学外でユニークな活動を展開しています。

ツリーハウスの制作や古民家の改修という活動を通じて地域とつながり、地域の人々と交流を図りながら、町の活性化について共に考えていこうという取り組み。

大学の中では学べないことを経験し、柔軟な発想で企業や行政にはできない提案を行う、そんなみなさんの活動をレポートしました。



**滋賀県立大学
とよさと快蔵プロジェクト**
学生の視点で空き家という
地域資源の活用を考える

**空き家の改修を
通じてまちづくりの一翼を担う**

滋賀県立大学の環境・建築デザイン専攻の学生が中心となつて活動を行ってきた「とよさと快蔵プロジェクト」。豊郷町内に数多くある、空き家という地域資源に学生の視点から付加価値を見出し、古民家や蔵の改修・活用を行うほか、地域のさまざまなイベントに参加したり、自らイベントを企画することで、まちづくりの一翼を担うことを目的としています。

「NPO法人とよさとまちづくり委員会」のメンバーが、大工の指導を受けながら解体される予定だった蔵の改修を行ったことに始まり、その思いを受け継いだ県立大の学生たちによって、平成16年に「とよさと快蔵プロジェクト」が誕生しました。まちづくり委員会と協力して、1年に1件ほどのペースで使われていない蔵や古民家、倉庫などの改修を行っています。

地域貢献を目的とする学生主体のプロジェクトを募集・選定して、活動資金などを支援する滋賀県立大学の教育プログラム「近江楽座」に採択されています。

活動体制は改修部門、イベント部門、タレント・ガ部門の3部門。改修部門では、昨年は店舗として活用するため、空き倉庫のリノベーションに取り組みしました。

3月末から夏にかけて、中に入っていたも

**持続可能な地域づくりへの
貢献を目指して**

とよさと快蔵プロジェクトでは、地域と交流を図るため、町内で開催されるさまざまなイベントにも積極的に参加してきました。例えばソフトボール大会や町内にある酒蔵で行われる酒蔵祭りの手伝い、豊郷観光協会主催の「とよさとハロウィン」のサポートのほか、町内の夏祭りには屋台を出店しています。



昨年リノベーションを手がけた宮川倉庫。雑貨店として利用されることになっている。



自然光を取り入れた明るく開放的な館内。ゆったりと書架が配置されている。

子ども用のイスとテーブルのある絵本のコーナー

外壁には滋賀県産のスギが貼られている。

湖国 街かど ウォッチング

新しい施設や街の話題をレポートするコーナーです。

守山市立図書館『本の森』（守山市）

「本と人が出会い、人と人がつながる知の広場」をコンセプトに、昨年11月1日にリニューアルオープンした守山市立図書館。設計を担当したのは、新国立競技場などのデザインを手がけた隈研吾建築都市設計事務所で、提案されたプランは閉じて完結した「箱」の図書館ではなく、地域に開かれた「みち」のような図書館でした。

守山市では、さらに基本設計の段階でワークショップを開催して、そこで出された幅広い世代の市民からの意見も反映するようにしました。

鉄骨2階建てで、延べ床面積は4168平方メートル。図書館の『本の森』と、多目的室やスタジオを備えた「つ



おはなし会が毎日行われる「おはなしのいえ」



快適な学習コーナー

ながる森」、カフェやギャラリーのある「木もれび広場」の3つのゾーンからなり、市民の学びや交流、文化・芸術活動の拠点となる施設になっています。



木もれび広場にあるカフェ

リニューアルに合わせて、本の管理をIC化して貸出の手続きがスムーズに行えるようにしたほか、全館Wi-Fi完備でパソコンの持ち込みも自由、居心地の良い図書館と評判になり、土日は開館を待つ人の列ができるほど人気の高い施設となっています。



本を読んだりお弁当を食べたりできる読書テラス

- 守山市守山5-3-17
- 077-583-1639
- <http://moriyama-city-lib.jp>
- 開館時間：火～金 日曜日 10:00～19:00
土曜日 10:00～20:00
- 休館日：月曜日（祝日は開館）、祝日の翌日、
年末年始（12月29日～1月4日）、
資料整理日（原則第一金曜日）、
特別整理期間
※つながらる森・木もれび広場は
年中9:00～21:00開館
（年末年始のみ休館）

C O N T E N T S



2019 Vol.689 春

湖国街かどウォッチング……………2
守山市立図書館『本の森』……………3
特集・話題の焦点……………3
地域とつながる
滋賀の学生たちの
取り組み……………6

行ってみよう……………6

歩いて出会う、
焼き物の街「信楽」の魅力……………8

おじやまします……………8

田中建材株式会社……………10

絵画コンクール入賞作品……………10

夢インタビュ……………13

高校生の視点で見た
建設業の魅力が学校新聞で紹介……………13

滋賀県立東大津高校新聞部……………13

夢けんひろば……………14

ビジネス最前線……………17

DS・J 滋賀草津校……………17

「仕事の達人・遊びの達人」……………18

社会人バスケットボールチームで
プレイするほか、指導者として
高校の部活をサポート……………18

植田雅則さん……………18

クイズ……………19

近江うまいもの紀行……………19

編集後記……………19

表紙写真……………19

こうじではたらく人のえ白井 駿介
公園をかわいさかいで車中 遠田 通
かんぱれショベルカーがこいさショベルカー 奥村 純
にじとむわ湖大はし 長田 敬人
夢の月面工事 丸井 源平
「私の町のじまの教会 遠田 悠菜
「トンネル工事をしてる未来の僕 義朗
「青麦の薫風」大宇神社 関東八巻「道脇 彩乃
POPなショベルカーでくる町小倉 実裕
旧琵琶湖ホテル北橋 そよか
東日本大震災の被災現場 田中 心葉

完成模型を展示し、設計者がプレゼンテーションを行った。



安全性、デザイン性、コストのほか、今までにない作品かどうか、技術的に建築可能かどうか、プレゼンテーション能力などを総合的に評価し、これまでにない四角錐が特徴的なデザインの「雨幌」が最終案に選ばれました。コンセプトは「探検・冒険」で、螺旋状の階段が好奇心を刺

激し、冒険心を掻き立てるようにになっています。講評会の後、さらにコスト面や技術面、施工過程を考慮し、50万円の制作費を目安に積算を行い、基本コンセプトを変えずに、建築可能なもの、コスト内に収まるようリデザインされました。営業部では、当初協賛企業探しに苦戦しましたが、地元の工務店から資材と加工場を提供してもらうなど、地元からの支援を取り付けることができ、制作に向けて準備が整いました。



「雨幌」完成記念イベント木のバズル作り

9月10日にスタートした夏合宿では、まずは足場の組み立てと木材の加工から始まり、約190名のメンバー全員が前期中期後期の3交代で作業を行いました。そして、慣れない斜面の作業に苦戦しながら完成した「雨幌」で、9月23日に行われた記念イベント「未知の果てまでイッテQ」では、訪れた親子連れなどがゲームや手づ



昨年大見いこいの広場に完成したツリーハウス「雨幌」

激し、冒険心を掻き立てるようにになっています。講評会の後、さらにコスト面や技術面、施工過程を考慮し、50万円の制作費を目安に積算を行い、基本コンセプトを変えずに、建築可能なもの、コスト内に収まるようリデザインされました。営業部では、当初協賛企業探しに苦戦しましたが、地元の工務店から資材と加工場を提供してもらうなど、地元からの支援を取り付けることができ、制作に向けて準備が整いました。



昨年大見いこいの広場に完成したツリーハウス「雨幌」

「雨幌」完成記念イベント「フォトコンテスト」



くり体験を楽しみました。今回のツリーハウス制作で印象に残ったことをアンケートで尋ねると、「何もないところから2週間でツリーハウスができたことが一番感動した」「先輩、後輩が協力して一つのものを創り上げたこと」「協賛金集めはたいへんだったが、企業の方と話できたのが良い経験になった」「地域の人々と関わることがよかった」といった声が寄せられています。

近畿大学「TSURIHA」と合同イベントも

昨年3月には、同様の活動を行っている近畿大学建築学部「TSURIHA」と、合同イベント「ツリーハウスの日」を開催しました。Crownの彦根市にある「木遊園」と米原市の「灯楽」、奈良県吉野町にある「TSURIHA」の「錦」の3つのツリーハウス



近畿大学「TSURIHA」との合同イベント

例えば、今までの完成したツリーハウスでのイベントに加えてそれ以外の場所でのイベントを企画すること、何年か経ったら解体することになっているツリーハウスを、団体の手を離れて地域住民に管理を任せるとか、いろいろな可能性が考えられます。「これまでの取り組みを振り返り、今後の活動のあり方についてより良い方向性を見出してほしい」と言う萩さん。地域に夢と元気を与えてくれる活動が、これからも受け継がれてほしいと思います。

学生団体「Clown」
<http://gakuseidanntai.wixsite.com/clown>



昨年度の代表を務めた萩智隆さん

何もないところから創り上げる喜びを体験

の検討、積算を経て、夏休みを利用した全員でのツリーハウス造り、完成記念イベントまで、資金集めや広報活動もすべて学生たちが行っています。

築80年の空き蔵を改修して平成18年にオープンした日本酒バー「タルタルーガ」は、町民と学生の交流の場となるよう、毎週土曜



昨年、プロジェクト発足15周年を記念してイベントが開催された。

入れてきました。昨年9月には、発足15周年を記念してプロジェクトのメンバーや、OB・OG、地域の人々が集うイベントを開催、ワークショップやまちあるきを通して、とよさと快蔵プロジェクトのこれからについて考えました。



学生間の交流を深めるため町民体育館を借りて運動会を行ったり、先輩たちが改修した古民家「満ち家」で毎年マルシェを開くなど、自主イベントにも力を

学生が運営する日本酒バー「タルタルーガ」



に学生たちが営業しています。今年2月に行われた朝日新聞社主催の「大学SDGs ACTION! AWARD 2019」において、「SDGs移動仮設カフェ」が、スターアップ賞を受賞しました。国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向け、次代を担う若者の活動を後押しするために創設されたもので、約80件の応募の中から書類選考を通過し、東京朝日ホー



移動仮設カフェ「出張タルタルーガ」でプレゼンテーションする上田さん



来年度の代表の一人である萩原さんは、「オープンキャンパスで活動を知って、このプロジェクトに入りたくて入学を決めました。学生はどんどん変わっていきますが、豊郷という一つの町です」と活動をやっていくからこそ、より地域に根付いた活動ができるのではないかと、今後に期待を寄せています。日本にある住宅のうち7戸に1戸は空き家で、2033年には3戸に1戸が空き家になると言われています。このような経験や視点を持った若い人々が、まちづくりの現場でどんな活躍をしてくれるのか、期待を込めて見守りたいですね。

滋賀県立大学 とよさと快蔵プロジェクト
<http://www.kaizo-hp.com>



上田さんと2019年度の代表の一人である萩原さん

代表の上田健太郎さんは、「大学内ではできないさまざまな経験ができたこと、特に学外のいろいろな立場の人と交流できたことが大きな魅力でした。地域との交流を大切にしながら、自らの成長にもつながるこのような取り組みが今後も続いてほしい」と活動に取り組んだ3年間を振り返りました。

大学内ではできないさまざまな経験を糧に

地域活性化を目指し1年に1基ツリーハウスを制作

立命館大学建築都市デザイン学科の学生団体「Crown（クラウン）」は、平成26年に1基目となるツリーハウスを、兵庫県丹波市の「丹波悠々の森キャンプ場」に造ってから、毎年1基ずつツリーハウスを設計・施工してきました。

団体の目的は、ツリーハウスの建設を通してたくさんの人とつながり、完成したツリーハウスでイベントを行って地域活性化に貢献すること。Crownという名には、ピエロのように子どもたちに夢を与え、大人には忘れかけていた何かを想起させてくれる存在になりたいという思いが込められています。

メンバーは1回生から3回生まで。代表、副代表のほか、設計（ツリーハウスの設計）、渉外（イベントの企画・運営、営業（資金集め）、広報（団体の情報発信）の4セクションに分かれて活動しています。

候補地の選定や敷地調査、設計から設計講評会、設計の見直しや工法



大見いこいの広場で行われた昨年の設計講評会

合同イベントは3カ所をつないで行われた。



で、それぞれイベントを行い、中継でつなぎました。

昨年4月から代表を務めていた萩智隆さんは、次の学年に代表を引き継ぐにあたり、今後の展望について、「団体としての転換期になるのではないかと考えています。」

信楽窯元散策路マップ



散策マップは信楽町観光協会（信楽伝統産業会館内）で入手することができます。

立ち寄り
スポット

③文五郎窯 ギャラリー「文五郎倉庫」

5代目奥田文五さんは浴槽や大型プランターなどの大物口クロ師として活躍、弟の章さんは和食にも洋食にも合う白と黒を基調としたシンプルモダンな食器を創作しています。

工房の奥には、もともと作業場として使われていたコンクリート造りの建物を改装したギャラリーがあり、窓から見える竹林を借景にしたスタイリッシュな空間に、章さんの器がセンスよくディスプレイされています。



●甲賀市信楽町長野1087 ●TEL: 0748-82-3153 ●不定休
●<http://www.bungoro.com>



● ● ●

Leisure Spot ● SHIGA

行ってみよう

甲賀市信楽町

歩いて出会う、 焼き物の街「信楽」の魅力

制作現場を体感できる
窯元散策

散策路には、「ろくろ坂」「ひいろ壺坂」「窯場坂」「外輪の路」の4つのコースがあり、それぞれに窯元やギャラリー、カフェなどが点在しています。

登り窯や煙突のほか、工房の敷地や散策路の脇に何気なく置かれた焼き物、ユーモラスな陶器のオブジェなどを探しながら歩くと、焼き物の街ならではの風情を楽しむことができます。コースはつながっているので、行ってみたくい窯元やスポットをピックアップして自分流にアレンジすることもできます。



モデルコース

※各窯元の情報などは、「窯元散策路のwa」のウェブサイト
<https://shigaraki-wa.jp> を参照してください。

ろくろ坂コース

新宮神社～みはる窯
約1.4km

新宮神社

3 文五郎窯

4 嶋吉陶房

5 英山窯 峯照庵

6 丸滋製陶

7 明山窯

8 壺久郎陶房

9 丸倍製陶

10 みはる窯

ひいろ壺コース

新宮神社～とらのす
約800m

新宮神社

地藏堂

11 奥田丸隆製陶

21 シクヤ製陶所

20 とらのす



窯場坂コース

新宮神社～株式会社卯山製陶
約2km

新宮神社

19 株式会社松庄

17 やすお陶房

16 ますみ窯

15 小川頭三陶房

14 株式会社山兼製陶所

13 谷寛窯

12 株式会社卯山製陶

外輪の路コース

新宮神社～なか工房
約3.4km

新宮神社

1 忠六苑

2 壺八

22 なか工房

窯元散策の際の注意点

・各窯元の休日や営業時間などは一律でないため、事前に「窯元散策路のwa」などのウェブサイトを確認されることをお勧めします。
・窯元はお仕事ですので、作業場の見学の際は配慮をお願いします。
・写真撮影の際は一言声をかけるようにしましょう。
・コース内には一般の住宅もありますので、生活の妨げにならないよう配慮しましょう。

秋から始まるNHKの連続テレビ小説の舞台となること
が決まり、甲賀市信楽町への注目が高まっています。
信楽町の中でも、特に多くの信楽焼の窯元が工房を構え
る長野地区。この地区にある窯元が集まって「窯元散策路
のwa」が結成され、信楽焼や窯元散策の魅力を発信する
ことになりました。
今回は「窯元散策路のwa」で制作された散策路マップ
を元に、散策コースをご紹介します。

立ち寄り
スポット

土鍋ごはん「睦庵」

今年4月5日にグランドオープンした「睦庵」では、信楽町神山でオーナー自らが作ったコシヒカリを土鍋で炊いて提供しています。お米の味の決め手となるのは水で、山からの水で育てたコシヒカリは大地そのものの味がします。お客様をお迎えしてからコトコトとごはんを炊き始める同店で、炊きたてのごはんやゆっくりした時間を楽しんでみませんか。



●甲賀市信楽町長野317-21 ●TEL:0748-82-2866
●Mail:info@shigarakiya.jp ●営業時間:11:00~17:00 ●定休日:木曜日

立ち寄り
スポット

⑩谷寛窯 ギャラリー「陶ほうざん」

明治時代の師範学校の講堂を移築した工房とギャラリー。工房内には、昔使われていた重油窯を利用した展示スペースもあり、土のぬくもりにあふれた食器や花器など、暮らしを彩るさまざまな作品が展示されています。

2階にある「里山カフェ」では、コーヒーの生豆を信楽焼の土鍋で自家焙煎した豆を使って、当主自ら淹れるコーヒーを、好きなカップを選んで楽しむことができます。



●甲賀市信楽町長野788 ●TEL:0748-82-2462
●休館日:火曜日、年末・年始 ●<http://tanikangama.com>

立ち寄り
スポット

⑦Ogama カフェ・ギャラリー・陶芸教室

花器のほか食器や陶人形、インテリア製品などさまざまな焼物を制作している明山窯の直営店。役目を終えた登り窯が保存されていて、その隣にはカフェとショップ&ギャラリー、さらに陶芸教室も併設されています。

窯元散策の途中で立ち寄って、登り窯を眺めながら、信楽焼の器でコーヒーを飲むと、信楽ならではの心と魂の時間が過ごせます。ショップでは明山窯はじめ信楽在住の作家の作品を展示・販売しています。



●甲賀市信楽町長野947 ●TEL:0748-82-8066
●カフェの営業は金、土、日、月、火、祝祭日 ●<https://www.meizan.info/ogama/>



木質加熱アスファルトによる 環境配慮型の舗装技術を開発

田中建材株式会社

高島市今津町今津

代表取締役 田中稔

廃木材の新たな活用法として 舗装材料の開発研究をスタート

田中建材株式会社が特許取得した、日本で初めての木質加熱アスファルトによる舗装技術が、廃木材や間伐材をチップ化し加熱アスファルトと混合して作った環境に優しい技術として、注目を集めています。

公共工事が減少する一方、解体工事が増え、廃木材の処理が課題となった同社では、当初堆肥などに加工して販売を試みたものの販路が広がらず、新たな活用法を模索することになりました。田中稔社長が「舗装材の材料として使うことはできないか」と考えたことが、木質加熱アスファルト舗装「ハーモニーロードウッド」開発のきっかけとなりました。

舗装材料の製造経験がまったくなかったと言う田中社長。石油製品を精製した後の残油「アスファルト」に砂利や砂を混ぜたものが一般的な舗装材ですが、砂利の代わりに比重の軽い木のチップを用いると均一に混ざらな

ことが大きな特徴となっています。こういった点が評価されて、これまでにエコマークアワードやウッドデザイン賞など数々の賞を受賞、平成29年には地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞、平成30年度「しが発低炭素ブランド」にも認定されています。

田中社長はエコマーク商品であることや、数々の賞で評価された点などをアピールしながら、行政などに対して粘り強く採用を働きかけてきました。その努力が少しずつ認められ、現在、有明に建設中の体操競技場にも採用されることになりました。中学時代、体操部で活躍した田中社長は、「世界の一流選手が競う会場にわが社の技術が採用されることになり、この縁をともしうれしく思っている」と意気込みを語ります。

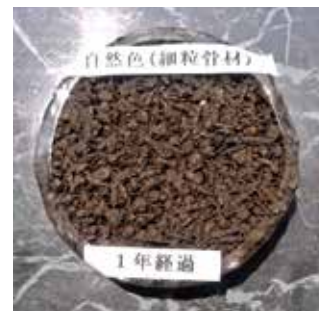
環境で地域一番の企業を目指し 清掃活動や環境教育に取り組む

「環境で地域一番の企業になる」という目標を掲げる同社では、月に一度の清掃活動「エコフォスター」や、地元の子どもたちを対象にした環境教育、社員の研究発表会など、これまでにさまざまな環境活動に取り組んできました。

また、京都大学大学院工学研究科の木村亮教授が理事長を務める認定NPO



木質加熱アスファルト舗装の施工例



木質加熱アスファルト舗装材サンプル



木質加熱アスファルトのプラント



社屋



淡海エコフォスターでの環境美化活動



体力向上のため
社員を対象に
行われる体力測定



開発途上国の道路整備活動にも協力している。

環境に優しい舗装技術として 環境大臣表彰などを受賞

その後も品質面の向上に取り組み、従来の木質舗装材では満たせなかった歩道における管理車両通行のアスファルト合材の基準を満たせるようになりました。

従来の木質舗装製品に比べると価格も低く、また断熱性能に優れ、ヒートアイランド現象の緩和につながることや、1,000㎡当たり6.5トンの炭素固定能力があり、廃

法人「道普請人」の理事を務める田中社長は、開発途上国の道路整備活動に協力するため、技術指導を行ったりしています。

「苦労して開発した製品や技術への思い入れもあって、今でも現場に出て社員と一緒に仕事をするのを楽しみにしている」と語る田中社長。社員の体力向上のため社内でスポーツテストを行うなど、健康でやり甲斐を持っている同社の、今後の躍進に注目していきたい



防災対策の一環として行われた炊き出し訓練



月1回行っている清掃ボランティア活動



小学生と大学生が参加したリサイクル施設見学会



課題を決めてディベート等を行う小集団活動



木質加熱アスファルトでエコアワードを受賞



田中稔代表取締役

夢けんプラザ絵画コンクールの審査も今年で6回目となりました。回を重ねるごとに応募作品や参加していただく学校も広がり、このユニークな活動が地域に根付いてきているのを実感します。今年の特徴は、特に中学生の部において「郷土滋賀の建設物」をテーマとした作品が多く集まったことが印象的でした。どれも郷土愛に溢れた作品が多く、審査員の間でもロケ地や作者の意図を推理したり、審査会場も大いに盛り上がりました。個人的には、応募作品で町歩きマップを作って、実際に建設現場や建設物を巡って見たらきっと面白いツアーになるだろうと、夢が膨らみました。今後も、この活動が子供たちの郷土愛を育み、将来はその作り手となる人材の育成に繋ることを願っています。



最優秀賞

第2部
小学校高学年
の児童

「夢の月面工事」
丸井 湧斗 (5年生)

優秀賞

評

月面や宇宙など暗めの背景に対して、黄色い動く機械や星々が鮮やかに映える、とても美しい作品です。また細部も丁寧に描かれており、背景の色彩も複雑な濃淡によって豊かな空間を表現しています。まるで本当に月面に動く様子を見て描いたような、説得力のある優れた作品です。



「トンネル工事をしている未来の僕」
林 義朗 (4年生)

評
様々な動く機械が丁寧に描かれており、作者のトンネル工事に対するロマンを感じる素敵な作品です。



「私の町のじまんの教会」
澤田 悠菜 (4年生)

評
ヴォーリズの教会が美しく描かれています。見上げるような構図は、その前に立つ少女の視点を追体験しているような、とても幻想的な気持ちにさせる作品です。



「迫力満点ホイールローダー」
奥村 公翔 (4年生)

評
ホイールローダーの複雑な形状をしっかりと描くことで、迫力のある画面に仕上がっています。とても丁寧な作品です。



「がんばって働く男たち」
平野 海飛 (6年生)



「ドローン測量」
桐畑 愛菜 (6年生)



「水陸両用パワーショベル」
平井 悠陽 (6年生)



「そびえ立つ
びわ湖大津プリンスホテル」
村田 皓祐 (5年生)



「彦根城と花火」
内田 涼佑 (5年生)

入選



「ダンプショベルミキサー車」
松尾 篤憲 (5年生)

第6回

『夢けんプラザ絵画コンクール』



次世代を担う子どもたちに向けて、建設産業の魅力を発信する目的でスタートした滋賀県建設業協会の「夢けんプラザ絵画コンクール」。安全で快適な暮らしを送るためのインフラ整備や、まちの豊かな環境の整備など、多くの役割を建設産業が担っていることや、その役割の大切さに関心を持ってもらい、子どもたちの豊かな感性や観察力、創造力を育むことを目的に開催される、県内の小中学生を対象とした絵画コンクールです。

テーマ

①「工事ではたらく機械と人」

- ・あたらしいなと思う独創性あふれる未来の建設機械を描いた作品
- ・迫力ある建設機械を力強く描いた作品
- ・工事現場で生き生きと働く人の様子を描いた作品

②「郷土滋賀の建設物」

- ・住んでいるまちの道路、橋、ダムや特徴的な建築物を描いた作品
- ・後世に残したい滋賀の土木遺産・建築遺産を描いた作品



最優秀賞

第1部
小学校低学年
の児童

「こうじではたらく人のえ」
白井 駿介 (2年生)

優秀賞

評

工事現場で働く人が、画面いっぱい描かれています。その表情はよくよく可愛らしく、ショベルカーで土を掘る人と、ダンプカーで土を運ぶ人の様子が伝わってきます。まるで二人の会話が聞こえてきそうな素敵な作品です。



「にじとびわ湖大はし」
長田 悠人 (3年生)

評
奥から手前に大きく伸びた虹と、左右に広がる琵琶湖大橋のダイナミックな構図が素晴らしい作品です。また湖面からの低い視点が、その効果を引き立てています。

「がんばれショベルカー
かっこいいぞショベルカー」
奥村 絢暢 (3年生)



評

働く機械が、台風で倒れた木を力強く摘んでいる様子が丁寧に描かれています。また、樹木の葉っぱや樹皮、作業員の働く様子が繊細に表現された秀作です。



「公園をかわいいきかいで工事中」
浅田 通 (3年生)

評
カラフルな動く機械が、とても魅力的な作品です。また、バリケードやカラーコーンも虹色だったり、工事現場が楽しくなる工夫がいっぱいです。



「みんなと
こうじげんばの見学」
原口 心美 (2年生)



「ゆめいっぱい
こうじげんば」
竹内 仁 (1年生)



「1号、2号、3号で
ビルをつくるぞ！」
奥田 奏亮 (2年生)



「石を運ぶダンプカー」
大石 悠斗 (3年生)



「こうじげんば」
柏木 壮太郎 (2年生)

入選



「すごいぞ滋賀県」
奥村 夏樹 (3年生)

最優秀賞

「青麦の薫風」
大宝神社（栗東八景）
道脇 彩乃（1年生）



評

特に石の表現が魅力的な作品です。手前の狛犬や台座の石は、強いコントラストと細部の描写によってその質感と光を見事に表現しています。また地面の砂利の石、自然石を活かした堀の石、石段の石など、繊細なタッチと色彩で描き分けています。大宝神社と2対の狛犬も丁寧に描かれた力作です。

優秀賞



「POPなショベルカーでつくる町」
小倉 実怜（3年生）

ピンクやブルーの機械に黄色い地面や緑の木、赤いお城と青い空に黄色い旗や紫の風船など、補色対比の効果を活かして鮮やかな画面を表現した秀作です。



「旧琵琶湖ホテル」
北橋 そよか（2年生）

美しい緑青の屋根が印象深い作品です。光の当たり具合を意識して、屋根や窓ガラスの色に変化を加えながら描くことで、堂々とした存在感が表現されています。



「東日本大震災の被害現場」
田中 心菜（1年生）

これは幼い頃の記憶なのか？動画や画像を通じて体験なのか？震災から8年、その記憶が薄れてゆく社会の問題に対して、描くことの意味を考えさせる作品です。



「滋賀の景色」
山田 陽太（2年生）



「大自然で働くショベルカー」
鈴村 昇洋（3年生）



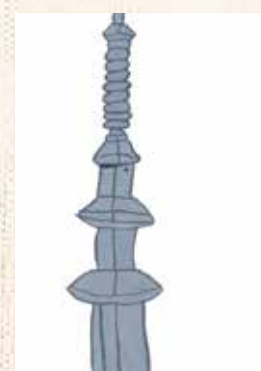
「仰木東公園の橋」
野呂 彩華（3年生）



「滋賀を見守る県庁舎」
今井 陽子（2年生）



「白鬚神社と天ノ川」
北邑 唯（3年生）



「滋賀の建築物」
園 風花（3年生）

夢 Interview



昨春秋の「建設みらいフェスタ」では、県立東大津高校の新聞部に、若手技術者へのインタビューやブースの紹介、建設中の関津トンネルの現場レポートなど、盛りだくさんの記事からなる学校新聞で、建設業協会の取り組みを紹介していただきました。

高校生の視点で見た 建設業の魅力を学校新聞で紹介

●新聞部の活動について紹介していただけましたか。

学校行事や生徒の活躍の様子などを中心に制作する「東大津高校新聞」を、月1回のペースで発行しています。それ以外に、今回のフェスタのような特別な企画で発行するものもあります。また、秋に開催される全国高等学校総合文化祭への参加に向けて、夏休み中からテーマを決めて企画を出し、手分けして取材や編集を行って8ページくらいのボリュームの新聞を作っています。

●昨年ほどはどんなテーマで制作されたのですか。

「子ども」をテーマに、貧困や虐待といったちよつと重い問題を取り上げました。県内の子ども食堂のほか、いじめや虐待の実態について滋賀県警にも取材に行きました。男子部員によるお勧めのラーメン特集など、楽しい記事も交えて制作した新聞は、滋賀県の学校新聞コンテストに入賞して、2年連続で全国高等学校総合文化祭に参加することができました。

●どんな経緯で「建設みらいフェスタ」を取り上げていただくことになったのですか。

滋賀県のほうから「こんなイベントがあるので、取材して新聞にしてみないか」というオファーがありました。当日はブースをいただいて新聞部のPRもさせていただき、フェスタの取材と編集は1年生が中心になって行いました。

●当日、会場をまわってどんな印象を受けましたか。

建設業のイベントということで、もっと堅苦しい内容かと思いましたが、銅板のレリーフなど手づくり体験ができるブースも多く、子どもたちも含めて来場者が楽しめるように工夫されていると感じました。それまで建築にまったく興味がなかったという部員も、「建築っておもしろいのでは？」「けっこう魅力のある仕事では？」と、建設業に対する考え方が変わったそうです。

●中高生のみなさんに建設業の魅力を伝えるために、どのように発信していけばいいでしょう。

ドローンとか高校生も興味を持ちそうな新しい技術が、建設現場に取り入れられていることをもっとアピールしたり、フェスタのような楽しいイベントがあることを、もっと多くの中高生に伝える方法を工夫すればいいのではないのでしょうか。

●最後に新聞部に入ってからよかったと思うことはどんなことが聞かせていただけますか。

なんと言っても素晴らしい仲間と出会えたことです。落ち込んでいても部活に来ると元気が出るし、遅くまで居残って編集作業をすることも仲間と一緒なら苦になりませんでした。

そして、いろいろなところに取材に行き、いろいろな方と出会えたことなど、普通の高校生ではできない経験がたくさんできたこと。その中で、例えば取材して記事を書くには、中立的な視点が大切なことも学びました。部活を通して視野を広げることができたと思います。

滋賀県立 東大津高校新聞部

部員全員で協力しながら、企画から取材、撮影や記事制作、パソコンを使った編集作業までを行い、月1回のペースで校内新聞「東大津高校新聞」を発行。滋賀県学校新聞コンテストではたびたび入賞を果たし、全国高等学校総合文化祭にも出場している。



夢けんプラザ絵画コンクール表彰式

平成30年10月4日、「第6回夢けんプラザ絵画コンクール」の審査会が行われ、第1部(小学校低学年)、第2部(小学校高学年)、第3部(中学校)より、それぞれ最優秀賞、優秀賞、入選作品が選ばれました。

また、最優秀作品に対して、以下の日程で各学校を訪れ、表彰式を執り行いました。

第1部 最優秀賞	野洲市立中主小学校	平成30年11月19日(月)
第2部 最優秀賞	大津市立堅田小学校	平成30年11月14日(水)
第3部 最優秀賞	滋賀大学教育学部付属中学校	平成30年11月13日(火)



長浜支部・伊香支部

長浜市総合防災訓練に参加

平成30年10月21日にびわ北小学校で行われた「長浜市総合防災訓練」に、長浜市と防災協定を締結している長浜支部と伊香支部から58名(41事業所)の会員が参加しました。

午前7時に湖北地域で震度7の大規模自身が発生したとの想定でスタートした訓練では、大型土嚢の運搬・設置作業や、小型土嚢を積み上げる水防工法「釜段工」に取り組み、出動態勢や作業手順を確認しました。



甲賀支部

小学校と保育園でグラウンド整備

甲賀支部では毎年実施している地元の小学校や保育園のグラウンド整備を、7月26日は甲南第3小学校で、9月4日には菩提寺保育園で実施しました。「きれいにしてくれてありがとう」と子どもたちからは感謝のこぼれが贈られました。

また、10月12日に、青年部会の17名が出席して、水口小学校の4年生を対象に、土嚢づくり体験などの出前授業を行いました。



5時間耐久リレーマラソンに出場

甲賀支部の有志12名が、10月7日に甲賀市で行われた「第34回10時間&5時間耐久リレーマラソン」に出場しました。会員相互の親睦を図ることが目的で、5時間の部に参加して161チーム中96位という成績でした。

特に、事前にトレーニングをしたわけでもなかったそうですが、「結構走ることができた」という参加者のみなさん。会員のお子さんも参加して、和やかな交流を楽しむ1日となりました。

甲賀支部では、ほかにも青年部会が毎週月第2金曜日にフットサルの練習を行っています。

また、今後は琵琶湖の北湖を自転車であらわるピワイチ体験も実施する予定です。



滋賀県建設業協会の活動について
ご紹介するコーナーです。
協会広報委員会のフェイス
ブックもあわせてご覧ください。

夢けんひろば

滋賀けんせつみらいフェスタ2018を開催

平成30年10月20日、大津港前イベント特設会場で4回目となる「滋賀けんせつみらいフェスタ」が開催されました。(公社)滋賀県建設産業団体連合会や滋賀県との連携で、「見たり」「体験したり」してもらいながら、建設の仕事の魅力を発信するというものです。

今年は「子供たちに建設業を身近に感じてもらう」というテーマで、工事現場で活躍する高所作業車などの特殊車両の試乗や災害対策車などの展示、ミニトラボットなどの製作体験、ステージ企画などの体験型イベントのほか、国道422号トンネル工事現場見学会、ねばー君のステージイベントなど、盛りだくさんの内容となりました。

当日はお天気にも恵まれ、約3,000人の来場者で会場は終日にぎわいました。



第6回 婚活パーティーを実施

平成30年11月10日、夢けんプラザで今年で第6回目となる婚活パーティーを開催しました。

未婚化・晩婚化への対策として建設業協会員従業員の出会いのきっかけを提供する社会貢献事業として、青年部が毎年企画・開催しています。

当日、参加者は男性21名、女性20名で、初めに男性参加者が職場(現場)で働いている姿の映像が上映されました。プロフィールカードを見せながら全参加者と一人ずつ話をする「1対1会話」では、仕事の話や趣味、休日の過ごし方について話がはずみ、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

そして、今回は最終的に8組のカップルが誕生しました。

終了後のアンケートでは、約9割が「次回も参加したい」と回答。「なかなか出会いの場がなくて参加してみたところ楽しかった」「しっかりとした安心なパーティー」といった意見を多数いただきました。

昨年、誕生したカップルから、素敵なお夫婦も誕生しています。

DS・J滋賀草津校 ドローンビジネスの急成長を見越して パイロット養成校を開校

各種ドローンの
展示スペース



DS・J滋賀草津校
〒525-0034
滋賀県草津市草津4-8-24
077-567-1000
<https://www.dsj-shiga.co.jp>



チーフインストラクターの國領和樹さん

草津市でLED足元階段灯やプリント基板の製造などを行ってきたアガタ電子株式会社。平成21年に太陽光発電システムの販売と施工を手がける株式会社アソシエ・アガタを創業、完成写真を空撮するためにドローンが導入されました。

その後、装置の点検を行うため、赤外線カメラを搭載したドローンを購入しようとしたところ、ATTIモードの操縦法を習得することが必要であることがわかり、縣秀治社長自ら東京まで出向いてドローン操縦士協会（DPA）のスクールを受講しました。

GPSと障害物検知システムが付いたGPSモードに比べると、ATTIモードは車に例えればミッション車のような手動操縦となるため高い技術レベルが要求されます。「GPSモードのドローンは問題なく操縦できましたが、スクールで初めてATTIモードのドローンに触れたところ、まったく思うように動かせないことに衝撃を受けました」と縣社長。

一方、ATTIモードで操縦すると、なめらかなスムーズな動きができるため、クオリティの高い空撮が可能です。また、GPSが効かない場所など、飛行環境によってはATTIモードに切り替わってしまうこともあるた



ドローンの可能性に着眼した縣 秀治社長

草津市でLED足元階段灯やプリント基板の製造などを行ってきたアガタ電子株式会社。平成21年に太陽光発電システムの販売と施工を手がける株式会社アソシエ・アガタを創業、完成写真を空撮するためにドローンが導入されました。

その後、装置の点検を行うため、赤外線カメラを搭載したドローンを購入しようとしたところ、ATTIモードの操縦法を習得することが必要であることがわかり、縣秀治社長自ら東京まで出向いてドローン操縦士協会（DPA）のスクールを受講しました。

め、ビジネスで活用していくためには、ATTIモードの操縦技能を習得することが不可欠になります。

縣社長は新規事業としてドローンパイロットを育成するスクールの運営に参入することを決意し、新たに全天候型の屋内飛行練習場を建設、昨年11月にDS・J滋賀草津校を開校して校長に就任しました。

物の点検、空撮写真を利用した現場の3Dモデル作成など、ドローンの活用が急速に普及していますが、ほかにも農業関連や輸送、防災、スポーツやエンターテインメントなど、今後、さまざまな分野においてドローンの可能性への期待が高まっています。

かつて太陽光発電に着目していち早く事業化したように、ドローンビジネスの成長を見越してのスクール開校は先行投資であると語る縣社長。操縦無料体験会やドローンの展示・販売、各種ドローンの説明会なども行いながら、滋賀のドローンビジネスを牽引するような存在となることを目指しています。



練習用コートが一望できる歓談スペース



天候に左右されない屋内の練習用コート

東近江支部・
湖南支部

豚コレラ発生を受け、迅速に防疫作業に対応

近江八幡市内で豚コレラが発生したことを受けて、滋賀県建設業協会ではただちに対策本部を設置、東近江支部と湖南支部が緊急対応に当たりました。一連の防疫対応について東近江支部のみなさんにお話をうかがいました。

夜を徹して行われた作業

2月6日、近江八幡市の養豚場で豚コレラが発生したことを受けて、協会東近江支部が近江八幡市工業会と連携して、滋賀県の防疫対応に協力しました。国の「豚コレラに関する特定伝染病防疫指針」では、発生から24時間以内に殺処分を行い、72時間以内に埋却などを行うことを目安としています。

2月5日17時10分に、滋賀県農政畜産課から「豚コレラ発生の疑いがある」との連絡を受けた建設業協会本部では、ただちに正副会長と東近江支部へ連絡を行い、古谷孝支部長と奥宗利副支部長、土田真也副支部長、西川学近江八幡建設工業会会長が、近江八幡市内の埋設予定地と農場を確認した後、県土木事務所において対策を協議しました。

その間、仮設テントなどの資材のほか、重機や車両、人員の手配を進め、6日6時半から農場での作業が始まりました。仮設テントの搬入に始まり、10トントラックを入れるために進入路に鉄板を敷き、処分用の車両の搬入などの準備を行いました。

当初予定していた近江八幡市内から変更となった、日野町の県畜産技術センターの埋設地では、11時15分から掘削作業が始まり、19時には深さ4メートル、幅5メートル×長さ45メートルの2ヶ所の穴の掘削が完了しました。

殺処分された豚の移動とダンプへの積み込みが16時過ぎから始まり、畜産技術センターで豚の受け入れが始まったのが18時20分。夜を徹しての作業によって699頭の処分を終え、搬出の最終便が出たのは翌朝6時半、7時15分には受け入れを完了しました。

さらに農場の汚染堆肥やエサの搬出と埋却作業も含めると、すべてを終了したのは8日の午前零時過ぎでした。



埋設地掘削作業



豚搬出積み込み作業



豚埋設搬入作業

スムーズな連携で機動力を発揮

防疫対応では、迅速な対応が求められるため、昼夜を通じての作業となってしまいます。そのため、「現場の仕事がある社員にはなるべく負担をかけたくない」と、今回は古谷支部長をはじめとする会員企業の代表者が率先して作業に参加しました。

一連の対応を経験したみなさんからは、次のような感想や提言が寄せられました。

「急な要請にもかかわらずレンタル業者などがスムーズに対応してくれて、必要な資材をすぐに集めることができた」「作業に当たったメンバー全員が一生懸命やってくれたおかげで、このような地域貢献を果たすことができた」「工業会とスムーズに連携できたことで、機動力を発揮することができた」「埋却場所が急遽変更になったことなども踏まえて、いざという時に農場の近くに埋却場所を確保できるようにしておくことも必要ではないか」「建設業にとって一番忙しい時期に、緊急対応をすることになったが、なんとか危機を乗り越えることができた」

そして、「これまで経験したことのない豚コレラへの対応ということで、本当にたいへんな中、みんなががんばってくれたことに、建設業として災害時の貢献が大切であるという意識が高まってきていることを感じた」と古谷支部長。この経験をマニュアルの整備などに活かすことで、建設業としてよりスムーズな連携・協力ができるようになると提言します。

今回の防疫対応では、湖南支部も東近江支部とともに消毒ポイントの設置などに協力しました。3月25日には滋賀県から協会本部並びに両支部に対し、敬意を表し功績を讃える感謝状が贈呈されました。



古谷支部長（前列右）と東近江支部のみなさん

前号の答え
かぼちゃ

パズル&クイズ当選者

岡本 好美さん
松村 哲夫さん
中小路進一さん
小山 眞さん
安土 憲彦さん
山中 邦夫さん
川崎 正一さん
柳 愛子さん
樽野 理恵さん
西村 道子さん

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り
平成31年6月20日必着
- あて先
〒520-0801
大津市におの浜一丁目1-18
(〒滋賀県建設業協会 広報委員会

季刊夢けんせつ春号

2019年(平成31年)4月10日

通巻第689号

発行 一般社団法人滋賀県建設業協会

〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18

TEL.077-522-3232(代)

FAX.077-522-7743

http://www.yumeken.or.jp

企画編集 広報委員会

協力・印刷 宮川印刷株式会社

明治6年創業の菓子長は、忍者の里「甲賀」ゆかりのお菓子で親しまれてきました。特に「甲賀忍法くノ一 最中」や巻物の形をした「甲賀流忍術最中」など、厳選した小豆を伝統の製法で炊き上げた最中の美味しさには定評があります。



甲賀流忍術最中



甲賀忍法くノ一最中

老舗の和菓子店ですが、現在のご主人の代から洋菓子を本格的に手掛けるようになりました。地域ブランドとして、地元産の材料を使ったお菓子を開發したいと考えていたご主人は、平成25年から地元甲南高校の生物と環境系列の学生が飼っている鶏の卵を使った「なめらかぷりん」の販売を始めました。



濃厚な半生タイプのチーズケーキ

甲南高校のこだわり卵を使った「なめらかぷりん」菓子処菓子長(甲賀市)



なめらかぷりん

- 本店
〒520-3308
滋賀県甲賀市甲南町野田594-4
- TEL/0748-86-0001
- 営業時間/9:00~18:00
- 定休日/不定休
- http://www.kashicho.com

この冬、滋賀県は大雪や吹き荒れる大嵐もなく、平年よりも気温が高い暖冬となりました。しかし暖冬といってもずっと気温が高い訳では無く、週によっては一気に冷え込むなど寒暖の差は激しくなっています。春の訪れまであと少し、風邪を引かないように体調管理には十分気を付けたいところです。

世間では学生さんの就職活動が始まりました。私も採用担当として会社説明会に臨んでおりますが、まだまだ建設業の魅力・やりがいを学生にうまく発信できていないように感じます。例えば震災が起こったとき、自衛隊や消防署の活躍が報道されますが、我々建設業もすぐさま現地に駆け付け、瓦礫を撤去し、仮設住宅を建て、被災された方の暮らしを守るための工事を行います。「安心」「安全」「快適」な暮らしを守る建設業の仕事は、社会に必要とされる責任ある仕事です。これからも東京オリンピック、大阪万博開催に伴うインフラ工事や建築工事、老朽化が進む全国の道路や河川などの補修・維持管理等、建設業界はまだ忙しくなりそうです。少しでも多くの学生さんが建設業界に興味を持ってくれるように、建設業の魅力をたくさんお伝えする季刊誌「夢けんせつ」の取材を続けて参ります。

After Word



ちよつと勝手が違う難しさがあります。男の子はやって見せたら説明しなくてもやってくれるようなところがありますが、女の子はどうしてそうしなくてはいけないのかと、言葉で説明しないと納得してくれないようなところがあります。できるだけ一緒にプレイして、一緒に考えるようにしています。



仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

社会人バスケットボールチームでプレイするほか、指導者として高校の部活をサポート

株式会社向茂組 植田雅則

地元湖東町のミニバスケットボールチームで、バスケットボールを始めたのは小学校4年生の時で、それからは中学、高校、大学とバスケットでした。中学の顧問の先生がとても熱心で、バスケットボールに真剣に取り組み転機となりました。

社会人になった後、8年ほどブランクがありましたが、今は地域の社会人チーム「Kukkuk」に入って、週に1度仕事が終わってから練習をしています。「Kukkuk」は、滋賀リーグにも参戦しています。

娘が中学のバスケットボール部に入部した時から、学校に指導に行くようになりました。娘が2年生の時なんですが、その時チームは1勝もできてなかったんです。それが、3年生の部員にとって中学最後となる試合で勝利を納めることができました。これは自分にとってもううれしい経験となりました。

その後、娘の高校に指導に行くことになり、卒業した後もずっと指導者を続けています。それまでベスト16止まりだったチームですが、ベスト8まで勝ち進むことができました。

女子チームなので、男子生徒に教えるのとはちよつと勝手が違う難しさがあります。男の子はやって見せたら説明しなくてもやってくれるようなところがありますが、女の子はどうしてそうしなくてはいけないのかと、言葉で説明しないと納得してくれないようなところがあります。できるだけ一緒にプレイして、一緒に考えるようにしています。

練習があり、試合にも付き添って行きますので、仕事との両立は結構きついものがあります。バスケットボールが好きなので、ここまでやってこれたようなものです。

でも「指導に来てくれないと困る」と言われるのはうれしいし、なにより彼女たちの成長を見るのは励みになります。厳しかったけれど、熱意を持って一生懸命指導してくれた中学の顧問の先生のように、真剣に取り組むことの大切さを伝えていきたいと思っています。



パズル クイズ

しりとりにクイズ

①から⑩の手がかりを参考にしりとりを完成させてください。

□の文字をつなげると、

ヒント 特集「話題の焦点」

- ① 国語、〇〇、理科、社会
- ② ウツギの白い花。おからの別名
- ③ ココナツを原料にした発酵食品
- ④ ウコギ科の落葉植物。若芽は山菜の女王とも呼ばれる。
- ⑤ モクセイ科の落葉低木。
- ⑥ 4月頃に紫色の花が咲く。
- ⑦ ヨモギの葉などをまぜてついた餅
- ⑧ 乳を発酵させて作った食品
- ⑨ 日本海が産地の食用ガニ
- ⑩ 春山を代表する花の一つ。

普通一つの茎に2つ花が咲く。アカマツの天然品種。滋賀県湖南市の自生地が有名。

